

I 実践

1 本校の人権教育の目標

すべての教育活動を通して、本校の教育目標「自らを高め 力のある人間となれ」の具現化を目指して、自分の大切さとともに他の人の大切さを認め、思いやりの心を育成し、支援することができる実践的な態度を養う。

2 実践内容

(1) いじめアンケート・QU アンケートの実施・面談・教育相談の実施

本校では、毎月いじめアンケート、QU アンケートを年2回実施している。アンケートをもとに、悩み、クラスでの満足度について把握し、それを元に担任は二者面談を行い、よりよい学校生活が送れるように生かしている。

また、夏休みには全職員を対象に「QU アンケートの結果をもとにした望ましい学級集団の育成について」研修を行った。グループアプローチを体感し、生徒の立場になることで、生徒一人一人にどのような声かけや居場所作りをしていけばよいのかを学ぶことができた。



夏休みに行った職員研修（平成29年8月4日）

講師 研修センター指導主事 倉持 浩先生

(2) いのちの教室開催

7月に2年生・3年生を対象に命の教室を開催した。2年生では茨城キリスト教大学看護部の先生を講師に招いて「思春期における心と体の変化、LGBT」、3年生では助産師の先生を招いて「性感染症、命の誕生」について講演していただいた。



2年生 いのちの教育

講師 茨城キリスト教大学 渋谷 えみ先生

〈講演会後の生徒の感想〉

- ・世の中には自分の性について様々な悩みをもっている人がたくさんいることを知り、相手を理解し尊重していくことが大切だと思いました。（2年生）
- ・私が生まれてきたのは本当に奇跡であることを改めて知りました。「いのちのバトンを先祖からつながれた私は、簡単になくなってはいけない存在だということが分かりました。（2年生）
- ・自分の体には責任をしっかりともちたいと思います。また一人で抱え込まず、大人に相談することが大切なことだと思いました。（3年生）

(3) いじめ防止運動

生徒会を中心に「いじめ防止運動」の実践方法について話し合いを行った。本年度は各部活ごとに“いじめをなくすために 何ができるか”などについて話し合い、各部の取り組みを集約し1月の給食時に校内放送で発表をする予定である。また、新入生体験学習で泉丘中いじめ防止の取り組みを新入生に発表する予定である。新入生が安心して泉丘中に入学できる環境を整えるため、生徒会の活動を通して人権意識の高揚に努めている。

(4) 校長賞の授与

本校は「時を守り（ノーチャイム）」「場を清め（無言清掃・きれいな学校）」「礼を正す（あいさつ・返事・身だしなみ）」の3つの心得がある。その心得のもと行動している生徒一人一人を称賛するために「校長賞」を授与している。「2分前着席を常に意識した行動」「下校時の通学路のゴミ拾い」「無言清掃への熱心な取り組み」など、日常の生活の中で、教師が生徒の頑張りや良い行いを見つけ推薦している。1年間で生徒全員が受賞できるようにし、生徒一人一人の自己肯定感や自己有用感を高めていくように実践した。



校長賞の授与

(5) 道徳の授業での取り組み

2学年では資料「ちがいのちがい」に取り組んだ。「あっていいちがい」に気づき、様々な文化や個性を尊重しようとする態度を培い、「あってはいけないちがい」に気づき、人権尊重と反差別の視点を培った。

〈授業後の生徒の感想〉

- ・優しい言葉をかけると気持ちはよくなる。ひと声で相手の気持ちは変わってくる。私は、人を思いやることをとても大切にしている。それが人として、大事なことだと思う。

3 成果

- ・「いじめ防止運動」の話合い活動を通して、自分では気づかないうちに何気ない言葉や態度が相手を不快な気持ちにさせているかに気づき、嫌な思いをしている生徒の立場に立って考える機会となった。
- ・「校長賞の授与」は、生徒にとって自分の行動を見つめ直す機会となり、改めて「当たり前のことを当たり前にする」ことを意識して生活していこうとする姿が見られるようになった。

II 今後の課題

- いじめの未然防止のために「いじめ防止フォーラム」の計画を早期に実施し、1学期から取り組めるようにする。
- 学級活動の中でも思いやりの心を育成する実践を充実させることが課題である。

III 人権コーナーの設置

本校では「人権コーナー」という名前では設置はしていないが、第2学年の掲示板に中学生の心に寄り添う詩を掲示している。今後、全校生徒が目にする場所にも掲示していきたいと考えている。



心に響く四季の詩（うた）